

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和 5 年度
----	---------

前期（中間見直し）

実施内容
自己評価結果
課題と対応策

後期（実績評価）

実施内容
・高齢者を見守る体制づくり 見守りサポーター登録人数：300 人 個別計画作成者数：244 人 生活支援サポーター数：22 人 ・生活支援サービスの体制整備 生活支援等サービス協議体：年 1 回開催 ・在宅医療・介護連携の推進 在宅医療・介護連携研修会：2 回開催 医療・介護関係者 82 名が出席 ・地域ケア会議の推進 地域ケア個別会議：6 回開催 地域包括ケア推進会議：1 回開催
自己評価結果
・見守りサポーター登録人数、生活支援サポーター数、個別計画作成者数 【△】 見守りサポーター登録人数は、前年度より 14 名増加しているが、目標値より少なかった。生活支援サポーター数は、ほぼ横ばいで目標値より少なかった。個別計画作成者数は、前年度より増加しているものの目標値より少なかった。総合的に、増加している項目もあるものの目標値に達していない項目が多いことから「△」と評価した。

- ・生活支援等サービス協議体開催回数

【△】

生活支援等サービス協議体は、1回の開催で市の取り組みや集いの場、他地域の取り組みなどの情報共有を行ったが、積極的な意見交換の場とはならなかったため「△」と評価した。

- ・在宅医療・介護連携研修会開催回数

【○】

集合型研修を2回開催し延べ82名の参加があった。研修後にはアンケートを取り、興味・関心のある内容や連携時の課題などを把握しており、医療・関係者の関心の高い内容の研修会を企画・開催することができた。グループワークを実施することで多職種間で顔のみえる関係づくりや意見交換ができ好評であったため、「○」と評価した。

- ・地域ケア個別会議開催回数、地域包括ケア推進会議開催回数

【○】

地域ケア個別会議は、6回会議を開催し、個別ケースの検討や地域課題の把握に努めることができた。また、地域包括ケア推進会議は、1回の開催と目標値に至らなかったが、関係機関と顔を合わせて積極的な意見交換を行うことができた。総合的に開催回数は、目標値に至らなかったものの、地域課題の把握や関係機関との積極的な意見交換により地域包括ケアシステムの強化につながったため「○」と評価した。

課題と対応策

- ・高齢者を見守る体制づくり

地域での日常のゆるやかな見守り体制構築のため、研修会等を通じて見守りサポーターの登録人数、生活支援サポーター数及び個別計画作成者数が充実するように努める。

- ・生活支援サービスの体制整備

今後も、関係機関との連携強化等のために協議体を開催し、地域のニーズ把握や日常生活上の担い手の養成、発掘、既存の地域資源や介護予防・生活支援サービスを活用し生活支援体制整備に努める。

- ・在宅医療・介護連携の推進

住み慣れた地域で最期まで自分らしい生活ができるようにするためには医療・介護関係者の連携が欠かせないため、次年度も引き続き研修会を実施し、関係者の連携を推進する。

- ・地域ケア会議の推進

地域ケア個別会議を定期的に開催し、多職種からの専門的見地から高齢者個々に対する支援に取り組むとともに地域課題の把握に努める。また、地域課題についての検討や必要な社会資源の開発や施策につなげられるよう地域包括ケア推進会議を開催し、地域包括ケアシステムの深化・推進を図る。